

- ・主伐に対応した木材生産システムの構築
- ・低コスト森林再生技術の開発

## 研究の背景・目的

林業は木を伐って、使って、植えるというように、資源を循環して利用することで成り立っています。いま島根県のスギ・ヒノキ人工林は成熟し、収穫の時期を迎えているため、効率的な伐採方法を考えなくてはなりません。また、伐採後は低コストで確実に森林を再生することが必要となります。

そこで、本研究では主伐(収穫のために行う伐採)に対応した効率的な作業システムの構築と、コンテナ苗などを用いた低コストで確実な森林再生技術について研究します。

## 研究方法

- 1) 効率的な作業システムの構築
  - ① 車輻系作業システムの調査 (写真1)
  - ② 架線系作業システムの調査
  - ③ 地形・路網に応じ機械を組み合わせた作業システムの構築
- 2) 低コスト森林再生技術の開発
  - ① コンテナ苗の育成試験 (写真2)
  - ② コンテナ苗植栽労務コストの調査(写真3)
  - ③ 萌芽誘導による再生林の低コスト化



写真1 車輻系高性能林業機械



写真2 コンテナ苗の育成



写真3 コンテナ苗植栽の様子

## 研究成果の活用・今後の研究計画

本研究によって、低コストで効率的な作業システムを提案します。また、島根県に最適なコンテナ苗の育苗・植栽等による森林再生技術を確立します。これらのことから、スギ・ヒノキ人工林の循環利用が促進されます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 森林保護育成科  
 研究担当者 : 岩田 若奈 (いわた わかな)  
 陶山 大志 (すやま ひろし)  
 福井 修二 (ふくい しゅうじ)  
 問い合わせ先 : 0854-76-3823  
 E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : 持続可能な森林経営を目指した人工林の循環利用システムの開発 (研究期間 : H25~27)

